

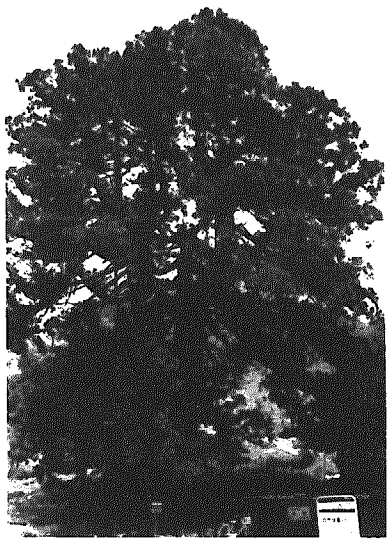
シリーズ 3 石 瀬

伝統が息づく街

■今月の「おじゃまします」—地域情報ネットワークは、日本むかしばなしにも紹介された「お杉とお松」で有名な石瀬地区におじゃましました。

石瀬は岩室地区の集落では、岩室に次いで二番目に大きな集落で、昔、城下町として栄えた集落で、伝統が深く息づいています。

石瀬といえば、村内でも旧所・名跡がたくさんある地区で、浄専寺、青龍寺、種月寺などの名刹をはじめ、伊勢参りで有名な名木「お杉とお松」などは歴史と伝統で、村内外からも広く知られています。また、老人憩いの家・静閑荘やテニス場などの施設も集落内にあり、そのほか数えきれないくらいみどころのある地区です。石瀬は西側を山林、東側に水田地帯が広がる地区で、古くから林業が盛んで、「石瀬の杉」と言えば材質も良質で古くから珍重されてきました。そのせいかどうか？ここは、建築業関係に携わる人が多く、「木造住宅で



伊勢参りの昔ばなしで有名な「お杉」

あれば、地区の人たちで全部仕事の間合いますよ」と話す石瀬区長の和田昇さん。

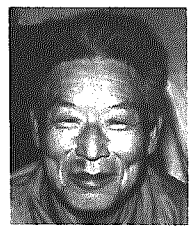
昭和六十二年には林道が完成し、林業振興と併せて多くの人たちから利用されています。最近では山菜ブームも手伝ってか、休日ともなると多くの人たちでにぎわっているといえます。「近ごろは山菜採りやハイキングなどに訪れる人が多くなり喜んでいますが、中にはみやみやたらに山草（雪わり草など）を採ったり、ゴミなどを所かまわずに捨てていく人がいて困りますね」と和田さん。

古い歴史的情緒を残す石瀬も、最近ではお年寄りのゲートボール、旧盆に盆踊りに代わるカラオケ大会など新しい地域の交流が生まれてきています。その反面、伝統の石瀬ならではの古行事も多く、その一つに「甲庚講」という珍しい講が受け継がれています。これは各家をもち廻りで廻り、念仏を唱えたり、お齋を食べたりして交流しているもので、現在も公会堂を会場に毎回五十〜六十人が集っているそうです。

ところで、こんな石瀬集落も社会環境の変化、混住化が進むにつれていろいろな問題や意見がでてきています。これらの問題解決の場として、また、新しい村づくりを考える場として、ことし公会堂建設（集落開発センター）を予定しています。「いまの公会堂は、百年以上も経ったもので傷みもひどく、会合などを開くにしても不便でした。今

度新しい建物ができれば、ここを拠点にいろんな集まりや会合をどんどんやって地域民の交流を積極的に図っていきたいですね。そして、みんなが集って石瀬集落の将来構想などを話し合えるような場ができれば最高ですね」と語る和田さん。

最後に和田区長さんから石瀬独特なこんなものもありますよと紹介された「石瀬小唄」……あまり知られていませんが、これは石瀬地区の名所などを織りこんで石瀬の人たちが作った歌だそうで、ぜひ機会があったら紹介したいねと話していました。

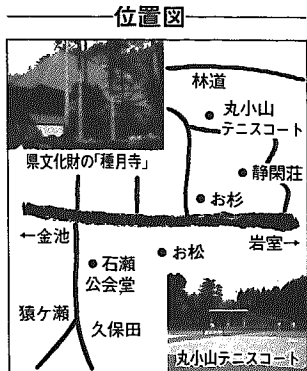


石瀬区長 和田 昇さん (67歳)

石瀬でたてたデータ

石瀬の顔

人口と世帯数	
人口	703
男	329
女	374
世帯数	163



■先月二十二日に行われた「村民歩け歩け大会」。あいにくの天気でしたが、早朝から大勢の人たちが集まり、くもり空を吹き飛ばすほどの熱気でムンムン。寒さなんかもなんのそのと歩きたしました。子供たちの速いこと速いこと、写真を撮ろうと右往左往しながら、ついて行くのが精いっぱい。体力の衰えをつくづく感じた小生です。

■先月十七日、カメラスケッチ(六ヶ)でご紹介した「車えびの放流」に同行したのですが、久しぶりの海はホント気持ち良かったですね。こんなときは「広報もいいな」なんて感じます。とくに、なぎの海から見る簡瀬海岸は、ふだん見ている陸からの風景とはひと味もふた味も違った明るい雰囲気があり、今度、ぜひ写真なんかでみなさんにもご紹介したいと思います。

■ところで、いままです海というか漁業のことにあまりふれていなかっただよな気がします。どんな魚が捕れているのか、またいまの漁業はどんな状態なのか、そして、そこに生きる人々は——。そんな漁業の生の姿について、次号あたりで企画してみようかな……。 (み)

編集後記